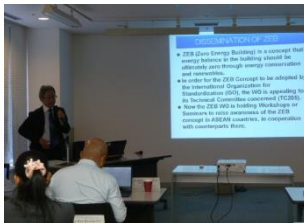


アセアン向け省エネ研修（ECAP20）を実施しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、経済産業省の委託を受けて、2019年12月にアセアン10カ国政府の建築物省エネ基準（BEC: Building Energy Codes）及びグリーンビル基準（GBC: Green Building Codes）関連部門の担当者及びアセアンのコーディネータ（ACE: ASEAN Centre for Energy）を対象に、以下の諸点を目的とした研修を行い、所期の成果を挙げました。

- (1) 日本における政策や優秀事例等を学ぶことにより、アセアン各国におけるBEC/GBCの構築及び洗練化を図る。さらに、JASE-Wとの連携により、ZEBの普及・推進のための技術的方策を探索する。
- (2) アセアン省エネ表彰制度（AEA : ASEAN Energy Award）において新たにサブカテゴリとなったZEB Readyビルの、昨年度における案件提出及び選考結果を踏まえ、今後の案件数増加や選考プロセスの改善資する対策を検討する。
- (3) 各国の現状に適応したBEC/GBCの構築又は洗練化のための知識・方策を習得する。



講義（ECCJ/JASE-W）



現場見学



グループ討議



各国最終発表

2019年12月2日～6日の5日間に実施された研修の概要は以下の通りです。

- (1) カントリーレポートの発表などから、ASEAN各国における建築物の省エネに関して、BEC/GBCやZEB化の推進・取り組み状況がそれぞれ異なり、各国毎に適した行動計画が必要であることが共通認識できました。
- (2) 日本におけるZEB推進の取り組みに関する情報共有（設計、運用、省エネ評価関連ツール等）に関しては、ZEB関連の具体的技術及び優秀事例及びを、講義・現場見学にて効果的・効率的に学ぶことができました。特に、現場見学では、ZEBの段階的水準（ZEB Oriented、ZEB Ready、Net ZEB）における代表的な民間企業の取り組みに関する知識を習得できました。
- (3) JASE-Wからは、ZEBの普及・推進のための技術的方策として、ビルの計画・設計・建設・運用に関するアドバイスや、ZEB Family Conceptの国際スタンダード化等に関する情報提供が行われました。その結果、JASE-Wを通じECCJ及びASEAN間の連携が大いに強化されました。
- (4) 2019年のAEAのZEB Ready提出案件数が少なく、表彰された案件がなかった事実を踏まえ、その具体的改善方法に関し議論した結果、以下の具体案が得られました。
 - ① アセアンは日本に倣い、ZEB Ready案件のみならず、更なる案件提出増につながるZEB Orientedの導入を同時的に行っていく。
 - ② 応募件数増加に向けては、国の政策面での支援を強化することや、AEAの最終選考会議に参加できない審査員がオンライン参加できるような仕組みを検討する。